

研究指定校名 : 米子市立東山中学校

1. 学校の概要

学校名	米子市立東山中学校
学級数	15学級（うち特別支援学級：3学級）
児童生徒数	全生徒数：380人（令和2年1月1日現在）
URL	http://www.torikyo.ed.jp/higashi-j/

2. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

【中学校区研究主題】

一人ひとりを大切にし、互いに認め合い、高め合う子どもの育成
～保・幼・小・中の一貫した人権・同和教育の実践を通して～

【本校研究主題】

〈学校研究〉 豊かな心を育み、主体的に学ぶ生徒の育成
～心が通うつながりの中で、学びを深める授業の創造～

〈人権教育〉 語り、受けとめ、共有できる人間関係づくり
～一人ひとりが心でつながり、
全員が安心して生活できる学級・学校をめざして～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

東山中学校区では、平成30年度に「東山中学校区人権・同和教育推進協議会」において、これまでの15年プランの見直しを行った。「基本的生活習慣の確立」「コミュニケーション能力の育成」「人権感覚の育成」「自尊感情の育成」を柱に、家庭、地域、学校、園・所が一体となって校区の子どもたちを育てていくことを確認した。

本校では平成27年度より、次期学習指導要領改訂に向けて授業改善を行ってきた。その研究を進める中で、生徒の主体性を高め、質の高い対話があり、学びの深まる授業づくりを行うためには、基盤となる仲間づくりの充実が欠かせないことがわかった。

“つながる”をキーワードにすべての教育活動を行ってきたが、とりわけ仲間づくり、学級づくりにおける“つながる”ことの重要性は大きい。

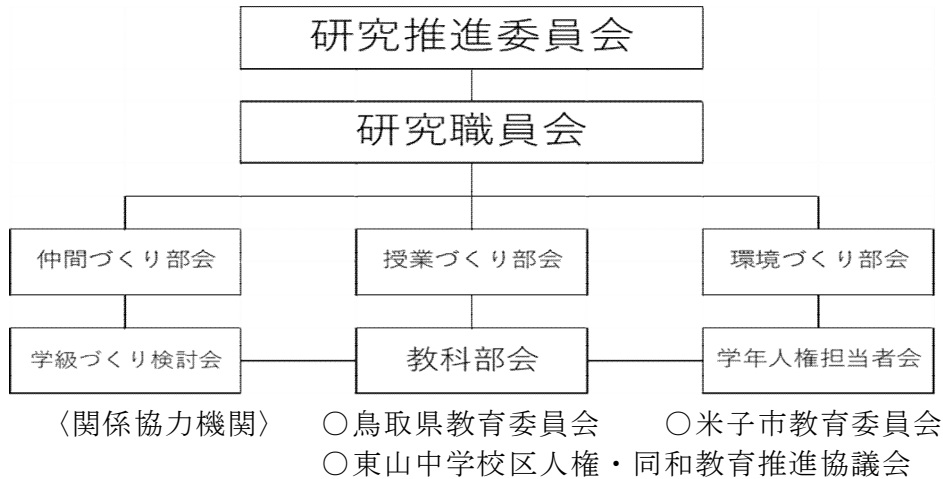
“つながる”ため、そして“つながり”を深めるためには、「やりとり」の機会を増やし、その質を高めていくことが大切である。自分の考えや思いを語る、それを心から聞き、それに対して自分の思いや考えを返していく。こういった「やりとり」を意図的に繰り返す中で、生徒たちのコミュニケーション能力の向上やつながりの強化ができると考えた。心でつながり、安心感のある空気が醸成され、誰もが大切にされる学級や学校をめざすためにこの主題を設定した。

(3) 取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可）

①女性	
②子供	○
③高齢者	
④障害者	○
⑤同和問題	○
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	○
⑧HIV感染者・ハンセン病患者等	○

⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬いじめ	○
⑭性的指向、性自認	○
⑮その他 ()	

3. 調査研究の推進体制



4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容等

(現状の分析と課題)

平成27年度からの取組により、生徒の自尊感情や仲間とのつながり、授業改善の部分については、ある一定の成果が見られる。(別表1)

しかし、平成29年度末に実施した人権学習意識調査アンケート(米子市)の本校の結果をみると、ほとんどの生徒が人権や差別の問題についての学習を必要であると感じていても、人権学習が自分のためになったと感じたことがあるかという質問に対し、23%もの生徒が否定的な回答をした。また、いくら学習しても差別はなくならないと回答している生徒も20%を超えており、生徒の意識と学習の成果の実感や有用性に溝があるのが現状の課題といえる。

道徳については、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思うか、という問いに対して肯定的な解答が着実に増えてきている。今後は、さらに話し合いの質を高め、判断力をつけ、実践意欲につなげていくことが課題である。

(表1)

*全国学力・学習状況調査質問紙 肯定的意見の割合 ()は全国平均

	平成28年度	平成29年度
自分にはよいところがあると思いますか。	76.5% (69.3%)	77.5% (70.7%)
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。	85.3% (84.2%)	89.7% (86.0%)
道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。	83.1% (74.1%)	88.9% (76.0%)

生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。	76.4% (64.8%)	76.5% (64.8%)
--	---------------	---------------

(調査研究の内容)

【研究の仮説】

- 《仮説1》全学年の全教科・全領域の授業の中に、人権教育の視点を取り入れた学習を積み重ねることにより、生徒一人ひとりの自尊感情を高め、豊かな人間関係を深めることができるだろう。
- 《仮説2》人権学習においては、自分事としての人権学習を進めることで、人権感覚を高め、知識だけでなく実践的な意欲や態度を育てるとともに、自分にとって意味のある学習ととらえさせることができるだろう。
- 《仮説3》道徳教育を充実させることで、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共生する生徒を育てることができるだろう。

(実施方法)

★全ての人権課題に対して、真摯に向き合える基本的な素養や能力を身につける

[人権が尊重される授業づくりの視点リスト] *全教科・全学年

人権が尊重される授業づくりを推進するために、視点リストを作成した。(右図)このリストは、人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]を参考にした。全教職員で共通理解をし、どの教科のどの授業でも人権の尊重を意識した展開になるように工夫をした。

人権が尊重される授業づくりの視点～簡易版～

視点	ねらい	全体計画との主な関連項目	チェック
① 人権を尊重する授業づくりの視点	① 授業参加、発問の取組を通じた尊重の正姿 キーワード: 全員参加 主体的な学び	B-4 C-1 C-2	
	② 意見表明を促す場として物議の仮定をめぐり学ぶ 一人一人が意見を述べ、意見を尊重する授業の正姿 キーワード: 自己表現 責任 適切な発言 意見交換	B-1 B-3 B-4 C-1 C-3	
	③ 一人一人を大切に学ぶ授業 [承認・賞賛・助言の言葉かけ、心配り、笑顔など] キーワード: 安心感 つながり 意の尊重 合理的配慮	C-2 C-3	
② 学びあいの場づくりの視点	① 学びあいの場づくりの学習環境をつくる キーワード: 学習意欲 意気力 発表スキル 観望を生かす授業づくり	B-1	
	② 互いに学びあう仲間と関係性を築く授業づくり キーワード: 尊重の心 互いの学び 相互理解 学び合い 相互理解 認め合い	B-2 C-2 C-3	
③ 私生活の中で人権を尊重する視点	生徒の体験、興味関心を踏まえ、多様な価値観を提示し、学習に繋がる機会を創出する機会		
④ 人権教育の推進の視点	① 学習意欲・学習意欲	B-3	
	② 学習内容・学習意欲	B-3	
	③ 学習方法・授業資料の活用方法	C-1	
	④ 表現方法・表現スキル	C-3	
	⑤ 学習意欲・学習意欲の場 ⑥ 学びあいの場・成果の発表・次の学習の学習機会		

[つながりタイムの深化] *全学級

SST(ソーシャルスキルトレーニング)の時間として取り組んできた「つながりタイム」を深化させた。今年度は「立体的なつながり」をキーワードとし、音・絵・におい・心の世界を通して、級友とつながれるような取組を行った。これまでの横のつながりを生かしてつながるこの取組は、クラスをつなぐを深める効果があった。

[人権ディスカッション] *全学級

中学校で当たり前に行われてきた班弁論を、今年度から人権ディスカッションと名称を変更し、取り組み方を大きく変えた。人権ディスカッションでは、これまでのように生徒の弁論をもとにするのではなく、人権にかかわるテーマについてそれぞれの思いを語り合い、受けとめ合う活動とした。

[新しい人権課題の教材化] *全学年

様々な人権課題がある中で、時代の変化にともないこれまでにない人権課題が出てきている。これからの社会を生きる生徒たちにとって、今後出会う可能性の高い人権課題については、正しい知識と正しく出会わせたいと考えた。新しく教材化することは、労力の必要なことだが、生徒たちにとっても、教員自身にとっても絶対的に必要なことだと考えた。ここ数年でチャレンジした新たな人権課題は以下の通りである。

- ・性の多様性について（性的マイノリティの人権） * 1年、2年
- ・情報モラル（インターネットにおける人権） * 3年
- ・多文化共生社会を考える（外国人の人権） * 3年

[道徳教育の充実] *全教職員

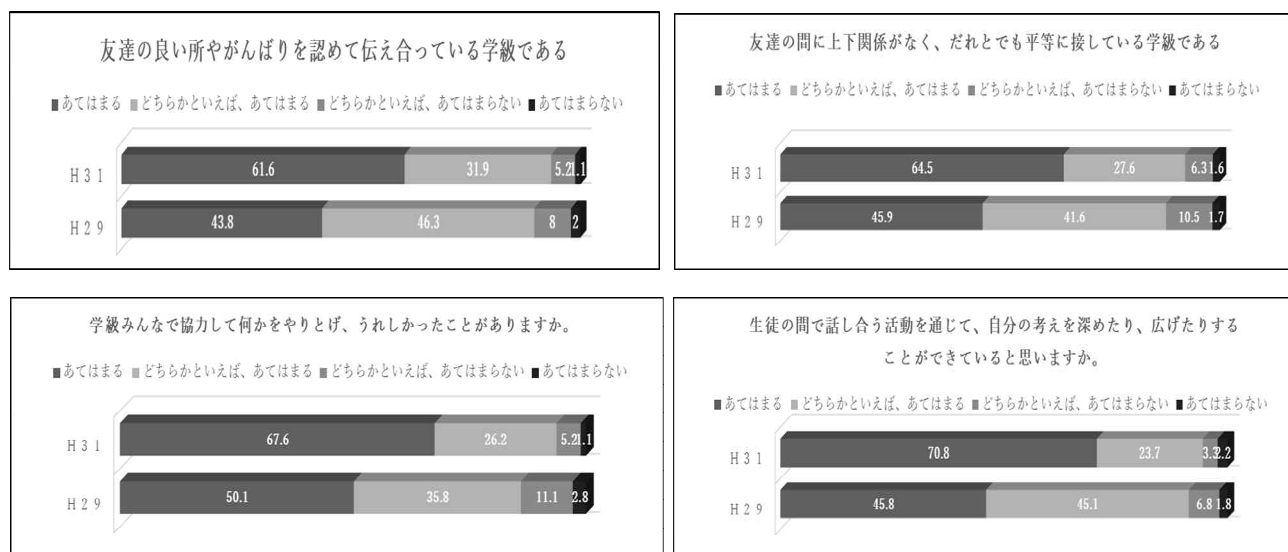
今年度より道徳推進教員による道徳専科の取組を行った。①授業スタイルの安定 ②道徳の授業の質の確保 ③評価活動の一本化 ④担任T・Tによる指導力向上などの成果を期待し、年間を通して道徳推進教員がメインで全学級の道徳の授業を行った。

また、道徳推進教員以外の教員の授業力向上もねらって、道徳での授業公開を行った。その際①同じ教材で価値項目を変えての授業実践 ②シャッフル道徳 などの取組により、道徳教育で育てたい資質・能力の向上の面においてより効果的になるように工夫した。

さらに、道徳アセスメント調査を行い、学級の道徳性に関する実態を把握し、授業計画や実際の指導の場面でいかした。

（検証・評価・普及）

生活アンケート（本校独自）の結果 （表2）

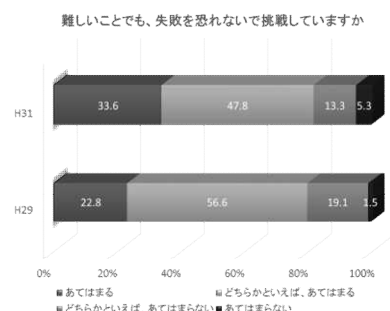


○成果と課題

- ・本校独自で行っている「生活アンケート」の結果について分析を行った。表2はその結果の一部である。紙面の都合上一部の結果となっているが、学級づくりや人権感覚にかかわる全ての質問項目について概ね良好な結果が得られた。特に本校の特徴は、学級のよさや取組の成果を、生徒自身がより強く実感しているところにある。例えば、「友達の頑張りを認めて伝え合っている学級である」という質問に対する「あてはまる」の回答が、H29年度からH31年度にかけて17.8%増加している。肯定的な回答というくりではなく、「あてはまる」という実感を伴うよい変容が見られたことが、1番の成果であると言える。
- ・学校全体で、足並みを揃えて仲間づくりに取り組むことで、どの学級でも生徒同士のつながりを強めることができ、学校全体としてよい雰囲気をつくることにつながった。
- ・他の学校では取り組まれていない視点での生徒同士をつなげる取組については、成果をしっ

かりと分析し、次年度以降につなげていく必要がある。

- ・自己選択・自己決定の場を授業の中で意識的に設定したことで、生徒たちが様々な活動に自信をもって取り組めるようになり、チャレンジしていこうという姿勢もより見られるようになった。（右図）
- ・人権学習をよりよく進めるためにも、日々の授業の中に人権の視点を組み込むことは必須なことであり、指導者の意識づけとしても大切なことであるのを実感した。
- ・人権ディスカッションの取組は、テーマ設定や、グループ編成などに課題も残ったが、活動時の様子は、あたたかい雰囲気に入れられ、人権教育の目標である、語り合い受け止め合う姿がみられた。来年度も継続して行っていきたいと考えている。
- ・これから出会うであろう新たな人権課題を教材化し、中学生に正しく出会わせることは、生徒にとっても指導者にとっても非常に大切なことである。今回実践した授業には改善できる点が多くあり、今後も検討を重ねていく必要がある。
- ・道徳に関する取組では、専科によって年間を通して安定した道徳の指導が行われ、生徒の道徳性の向上につながった。



人権にかかわる授業に対し、主体的に授業に参加し、対話を通しながら、考えを深めています。

＜道徳の時間の意味について書かれた生徒の振り返り＞

“自分と本気で向き合える時間、深い場所までいくことのできる時間、人生についていろいろ考えられる時間、いろいろな話を通して、こんなに心を動かされた学校の授業はなかった”
（今後の取組）

- ・今年度行ってきた専科での取組を、来年度にどうつなげていくかが大切だと考えている。道徳ノートの使い方や振り返りの書かせ方など、今年度つくった授業の型を活かしつつ、各担任の色を発揮させ、発展させていきたい。
- ・新たな人権課題を教材化するにあたり、人権学習について教職員同士語り合う時間は貴重だった。今後もよりよい教材づくりをしていったり、これまで実践されてきた人権学習についても教材や授業展開を改善したりする必要がある。今後もそのような時間を確保していく。

○普及

- ・米子市人権・同和教育研究集会や米子市中学校区人権教育研究発表会で、人権尊重の視点を普段の授業に組み込むことの重要性や自己選択・自己決定の場の意義についてなどの研究の成果を伝えた。
- ・中学校区の小学校と課題を共有し、研究の成果と課題を踏まえて解決に向けた取組を行う。

（2）実施結果

時期	内容	備考
4月2日	研究推進委員会	参加者：8人
4月3日	研究職員会・学年会・担任会	参加者：全教職員
4月18日	全国学力・学習状況調査	対象：3年生
4月24日	第1回「人権教育研究推進事業」連絡協議会	参加者：1人
5月22日	研究推進委員会	参加者：8人
5月16日	道徳アセスメント調査	対象：全校生徒
5月28日	研究職員会・校内授業研究会（3年理科） 【指導助言】西垣卓宏係長（県教育委員会） 岡田誠一指導主事（市教育委員会）	参加者：全教職員
6月18日	研究推進委員会	参加者：8人

6月25日	研究職員会・校内授業研究会（2年道德） 【指導助言】西垣卓宏係長（県教育委員会） 岡田誠一指導主事（市教育委員会）	参加者：全教職員
7月3日 7月10日	研究推進委員会 研究職員会・校内授業研究会（1年理科、社会、学活） 【指導助言】西垣卓宏係長（県教育委員会） 岡田誠一指導主事（市教育委員会）	参加者：8人 参加者：全教職員
7月25日	研究職員会	参加者：全教職員
8月22日	研究職員会	参加者：全教職員
9月17日 9月24日	研究推進委員会 研究職員会・授業研究会（3年道德、2年英語、国語） 【指導助言】西垣卓宏係長（県教育委員会） 岡田誠一指導主事（市教育委員会）	参加者：8人 参加者：全教職員
10月10日 10月16日	研究推進委員会 研究職員会 教育相談アンケート	参加者：8人 参加者：全教職員 対象：全校生徒
11月8日 11月12日	研究推進委員会 授業研究会（3年学活） 【指導助言】福田知浩（箕蚊屋中学校長） 授業研究会（1、2年学活） 【指導助言】岡田誠一指導主事（市教育委員会） 村田 誠（箕蚊屋小学校長）	参加者：8人 参加者：3年団 参加者：1、2年団
11月14日 11月29日	Q-U調査 米子市中学校区人権教育研究発表会（全学級公開） 【指導助言】岡田誠一指導主事（市教育委員会） 福田知浩（箕蚊屋中学校長） 村田 誠（箕蚊屋小学校長） 西垣卓宏係長（県教育委員会） 成果刊行物配布	対象：全校生徒 参加者：全教職員 160冊 配布先：市内中学校、関係機関、教育委員会、参加者
12月	学校評価アンケート	対象：保護者
1月8日 1月23日	研究職員会・研究部会・学年会・教科部会 米子市人権・同和教育研究集会	参加者：全教職員 参加者：3名
2月5日 2月10日	研究職員会 人権意識アンケート、生活アンケート 第2回「人権教育研究推進事業」連絡協議会 人権教育研究推進事業報告会	参加者：全教職員 対象：全校生徒 参加者：2人 参加者：2人
3月	研究推進委員会 研究職員会・研究部会・学年会・教科部会	参加者：8人 参加者：全教職員

(3) 人権教育に係る年間指導計画（別添）